



Japan
Food
Research
Laboratories

第 11120726001-01 号 page 1/3
2012年(平成24年)01月24日

試験報告書

依頼者 株式会社 オレア

検体 オレア水溶液 200ppm

表題 殺菌効果試験

2011年(平成23年)12月15日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



本報告書を他に掲載するときは当センターの掲載規約をお守りください。

財団法人
日本食品分析センター

殺菌効果試験

1 依頼者

株式会社 オレア

2 検体

オレア水溶液 200ppm

3 試験目的

検体のカビに対する殺菌効果を試験する。

4 試験概要

検体に *Botryotinia fuckeliana* 及び *Trichophyton tonsurans* の菌液を接種し、(以下「試験液」という。), 室温で保存し、1及び3分後に試験液中の生菌数を測定した。

なお、あらかじめ予備試験を行い、生菌数の測定方法について検討した。

5 試験結果

結果を表-1に示した。

なお、試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより、検体の影響を受けずに生菌数が測定できることを予備試験により確認した。

表-1 試験液1 mL当たりの生菌数測定結果

試験菌	対象	生菌数 (/mL)		
		開始時*	1分後	3分後
<i>Botryotinia fuckeliana</i>	検体	3.7×10^4	<10	<10
	対照	3.7×10^4	—	2.4×10^4
<i>Trichophyton tonsurans</i>	検体	6.1×10^5	<10	<10
	対照	6.1×10^5	—	6.4×10^5

<10 : 検出せず

— : 実施せず

保存温度 : 室温

対照 : 精製水

* 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し、開始時とした。

6 試験方法

1) 試験菌

- ① *Botryotinia fuckeliana* NBRC 100717
- ② *Trichophyton tonsurans* var. *sulfureum* NBRC 5945

2) 菌数測定用培地及び培養条件

GPLP寒天培地[日本製薬株式会社], 混積平板培養法, 25 °C ± 1 °C, 7日間

3) 試験菌液の調製

試験菌をPotato Dextrose Agar(Difco)で25 °C ± 1 °C, 10~14日間培養(試験菌①は紫外線ランプ照射下で培養)した後, 胞子(分生子)を0.005 %スルホコハク酸ジオクチルナトリウム溶液に浮遊させ, 不織布フィルターでろ過後, 菌数が $10^6 \sim 10^7$ /mLとなるように調製し, 試験菌液とした。

4) 試験操作

検体10 mLに試験菌液を0.1 mL接種し, 試験液とした。室温で保存し, 1及び3分後に試験液をSCDLP培地[日本製薬株式会社]で直ちに10倍に希釈し, 試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお, 対照として精製水を用いて同様に試験し, 開始時及び3分後について生菌数を測定した。

以 上